

群馬県立文書館

文書館だより

TEL 027 (221) 2346

<http://www.edu-c.pref.gunma.jp/kyou/monjokan/>

第39号 平成14年6月

①昭和六十三年一月徳仁親王殿下（現、皇太子殿下）ご来館 ②平成十四年一月県庁庶民ホールで開催された「文書館特別展」 ③昭和五十七年開館当初の文書館 ④平成七年文書館増築に伴う遺跡発掘調査 ⑤平成八年二月開催の書庫増築記念「史料保存シンポジウム」



群馬県立文書館の

二十年

昭和五十七年十一月に開館した当館はまもなく満二十年をむかえようとしています。

当館は開館以来、江戸時代の古文書や明治時代以降の行政文書などの収集や整備に力を注ぎ、また古文書講座や展示会などを催して市民の皆様

に深いご理解を賜りました。当館は今後も市民の皆様のご支援のもとに、貴重な歴史史料を後世に伝えていきたいと存じます。

群馬県立文書館

開館二十周年を

むかえるにあたって

館長 秋池 武

群馬県立文書館が開館して、今年で二十周年になります。

開館した昭和五十年代は、高度経済成長時に計画された開拓自動車道、上武道路、上越新幹線開通など、県内の交通体系とそれに伴う地域開発が進み、居住環境が大きく変化した時代でした。

このような時代は、得られるものが多い反面、失われるものもまた沢山ありました。この頃進められていた「群馬県史」や県内各地の市町村誌の編纂は、それまで群馬県に居住した人々の生活を明らかにして、県民の皆さんに知っていただくとともに、それを後世に伝える大仕事といえました。

この歴史で蓄積された史料や県内の古文書、県庁で保管されてきた明治以来の公文書を取壊し、活用を図るために建設されたのが県立文書館です。

したがって、文書館は行政文書の保管

とともに、群馬県に居住した先人の生活の姿を今日に伝える歴史史料を整理し、的確に保管、管理して現代および後世の人々の利用に供することが大切な仕事と言えます。

群馬県の文書館が、公文書館法（昭和六十三年六月一日施行）に先行して開館したのも、このような重要性を早く認識したことにあります。同様の施設は現在、国には国立公文書館、都道府県立では関東地方を中心に二十七館ありますが、そのうち独立館は十七館、市町立は政令指定都市を中心に十五館があります。

群馬県立文書館は、平成七年には県庁舎移築に伴い増築され、書架延長が約二千七キロメートルになり、国内では神奈川県、沖縄県などとともに高い収蔵能力を持つています。収蔵庫には二十年をかけた収集された行政文書十二万、古文書三十三万、歴史関係文書七万、合計約

五十二万点の史料が保管されています。収蔵文書で特徴的なものは、県庁史料では、明治六年から製作され、現在の地番のもとになった「壬午の地引絵図」約千二百枚があります。これらはワイタロフィルムに取められ、明治初期の村の姿を確認することが出来ます。また、古文書は県民からの寄託、寄贈ですが、百妻町伊藤家、鬼石町飯塚家、下仁田町神戶家をはじめ、多くの重要な史料が含まれています。

これらの史料は保管管理と利便性を図るため、今年度後半から日録のコンピュータ検索が一部開始されます。また、収蔵

史料を利用した古文書講座は、従来の入門・長期に加えて、地域（へ向く）ふるさと古文書講座」を実施しています。収蔵史料の展示では、文書館で実施する収蔵展示、企画展示に加えて、県庁舎で特別展示を実施してきました。また、「子どもを育てるなら群馬県」の方針を踏まえて、学校との連携強化を図るため、収蔵史料中の教科書展示、収蔵史料の教材化、展示史料の貸出しなども試みています。

開館二十周年に当たる本年度は、次のような行事を計画しています。

「オーブンウィーク」は、八月二十日～二十五日の間実施する事業です。この間は二十年の間に製作したポスターやパネルの展示に加えて、書架あまり目しない文書の整理と収蔵庫の見学と相談の紙漣などを体験していただくとする企画です。また、十一月十九日～二十五日には、県庁一階ホールで「上州の交通史四〇〇年―山道から高速交通網へ―」と題して「二十周年記念特別展」を実施します。期間中の二十三日には、二十周年式典と講演会も開催します。

県立文書館では、この二十周年を機会に、更に利用しやすい施設として改善を図りますので、県民の皆様のご利用をお待ちしています。



利用者からの一言

蛸魚の会 二十年の活動

唐沢 邦武

本会は昭和五十八年県立文書館の第一回古文書講座終了の有志によって結成され、会員は概ね百六十名、昭和六十年より午前・午後の二部制として学習しています。同六十一年から「蛸魚の会会報」を発行、講演会や現地研修会の実施、及び特別学習会も発行、充実した運営となりました。

平成六年度には石川薫記念地域文化奨励賞を受賞、引続き「松平藩日記」の再行が高評価を得ることができました。

来年は創立二十周年、謙虚に地道に「百尺竿頭進一步」を目指したいと願っています。

古文書同好会の二十年

落合 久男

県立文書館が開設して今年が二十周年のこと、古文書同好会一同、心からお慶び申し上げます。

本会が発足したのは昭和五十八年であり、当時、古文書を解説して、郷土の歴史を知りたいと願う二十五名の先輩達により発足しました。以来約二十年、文書

館より学習の場と、学習の資料である古文書を利用していただき感謝致しております。本会は、発足時の先輩達の理想に背くことなく、今後も地元の古文書を中心に解説を続けていく方針です。

文書館へ行って

群馬附属小学校 四年 北畑 有希

学校の「くすの木」の学習で、友達二人と文書館へ見学に行きました。

文書館に初めて行って、中に入ったので、ドキドキしました。中へ入ると本がたくさんあり、きれいに書庫にしまっており、本はすごい昔の本から、少し前の本までいろいろ入っていました。

文書館へ行って、いろいろ勉強になりました。文書館とは、昔を知るのにも必要なお所だと思いました。



むかしの新ぶん

天川小学校 二年 かばさわ きつか

わたしは、生かつかの町たんけん、文じよかんに行ききました。

「二かいに行ったら、としよつみたいのがあるよ。」

と、文じよかんの人が教えてくれました。二かいに行く、中におねえさんが、「これは、むかしの新ぶんだよ。」と言っていて、見せてくれました。

むかしの新ぶんは、よこ書きなのに、字は、右から書いてありました。

「むかしの新ぶんは、今とちがうな。」と、ふしぎに思いました。

宝の山・群馬県立文書館

高崎商科大学教授 菅原 善芳

僕は、日本近代教育史研究者である。初めての訪問、親切なアーキビストのレファレンス指導に支えられて「簿目録」「姓名目録」を総解いた。目が釘付けになった。ここには宝が眠っていると直観できた。学務文書を探った。目録は丁寧に作成されている。すぐ見つかった。コピーサービスもして頂いた。さらに「文庫」(文部省中等教員検定試験)関係資料も山のように出てきた。すごい。群馬県立文書館は後の研究の運び場になった。文書のためにデジカメももっている。県民の自己点検・認証も示す群馬県立文書館の資料群は宝の山である。いい仕事をしていますね！

文書館で行政利用

群馬県土木部用地課 関田祐子
行政利用(文書館にある公文書を県庁

職員が業務のために利用すること)で文書館には足踏く通っています。土地を扱う仕事をしているため、古い資料はとっても大事。最近ではあの独特のにおいにも抵抗がなくなるほどです。問題解決の糸口となる大切な資料なのですが、借覧した資料を職場でひもとくと突如刺さる周囲の人の視線。確かに殺虫、殺菌の影響で臭いですが「笑」。今、私達が携わり作成した書類も、何十年か後には収集文書として、文書館に収められ、県民の皆様がご覧になるのかもしれない。きちんとした仕事をしなければと思えますね。

文書館と沼田市史

沼田市総務部総務課 石崎 英雄

平成二年度から始まった沼田市史編さん事業も今年の三月に全巻が完成いたしました。その間、職員が資料調査のため積極的に文書館を利用していただきました。資料の閲覧・検索、また文書資料はもちろんです。松岡や書翰に至るまで貴重な資料の取り扱い方など、さまざまな点で文書館の方々の親身な指導を受けました。そこのおかげで編さんも期満に作業を進めることができました。個人的にも、生涯学習の場として今後も積極的に利用させてもらおうと思っています。

二十周年記念

開設二十周年記念

オーブンライク

—夏休み!!

親子おもしろ文書館—

いつもは見られない文書館の施設を特別に公開し、文書館でどんな仕事をしているのを見ることが出来ます。また、こより作りや昔懐かしい謄写版印刷（かり版印刷）、和綴じ製本、和紙作りが体験できます。

期日 八月二十日（火）二十五日（日）
時間 午前十時～午後四時
会場 群馬県立文書館

対象 市民一般

館内見学 午前十時～十二時、午後一時～二時、三時の一日五回。所要時間は三十分ほどです。

体験コーナー 費用は無料です。和紙作り以外は、当日参加で、事前の申し込みは必要ありません。

①こより 昔はホチキスではなく、いろいろな紙をサイクルして「こより」を作り、書類などとしていました。期間中は毎日行っています。

②謄写版印刷 謄写版印刷は、以前はよく使われた印刷方法です。電気を使わないエコロジー印刷に挑戦してみませ

んか。八月二十日・二十三日の四日間行っています。

③和綴じ製本 和綴じ製本は針と糸を使って簡単なノートを作ります。八月二十日・二十三日の四日間行っています。

④和紙作り 日本の昔からの方法で紙を作ります。八月二十四日（土）、二十五日（日）の二日間、午前十時からと午後一時からの合計四回、所要時間は約二時間です。職人による紙漉を見学した後、実際に手漉和紙を作ります。

定員は、一回につき二十五名です。申し込みは、八月一日から電話、またはファクスにて受け付け、定員になりしだい締め切ります。

電話 027・221・2346
ファクス 027・221・1628

体験コーナーは、小学生でも楽しくできます。今まで文書館に来たことがある方も初めて来る方も大歓迎です。



(小川町和紙体験学習センター提供)

文書館

二十年のあゆみ

昭和51・11・22 歴史編さん委員会が文書館建設を

陳情

54・3・15 陳情を議会が採択

54・4・1 文書館建設準備室に職員を配置

55・5・14 第一回県立文書館建設準備委員会開催

56・6・9 県立文書館起工式

57・4・1 県立文書館の設置

57(現)・11・1 県立文書館開館

開館記念展「上州の陶術史料展」開催

57・11・7 開館記念講演会開催

57・11・17 史料協全国大会開催

57・12・23 第一回文書館協議会開催

58・3・31 「群馬県立文書館収蔵文書目録」創刊

58・6・2 初級古文書解説講座開講

58・6・11 長期古文書解説講座開講

58・7・15 「文書館だより」第一号発行

59・3・24 「群馬県行政文書館目録」創刊

59・3・31 研究紀要「双文」第一号発行

62・6・31 古文書解説入門講座開講

62・3・31 「群馬県行政文書館目録」創刊

63・1・26 徳仁親王殿下御来館

63・12・1 明治期村松図マイタクロ複製開始

平成1・3・27 公文書館法の施行にともない、設置条例を一部改正

1・12・13 国立公文書館館長小止正氏来館

3・3 藩関係資料マイタクロ複製化終了

上毛新聞のマイタクロ複製化終了



文書館開館

記念特別展

「上州の交通史四〇〇年
— 中山道から高速交通網へ —」

今年が文書館が開館して満二十年であると同時に、中山道の宿駅伝馬制度が成立して四百年にあたります。そこで、記念特別展として、開館してから今日までに収集した古文書や行政文書、絵地図などから、中山道をはじめとする江戸時代の上州の諸街道や明治時代以降の道路、鉄道網の整備等に関する交通資料を紹介し、江戸時代から近代まで、群馬県の交通網の発展過程を見ていただきたいと思っております。

①江戸時代の上州の諸街道
②明治時代以降の鉄道・道路の整備
③現代の高速交通網の発展



中山道権水閣所の女通行手形

特別展記念講演会

「加賀百万石と中山道の旅」

県庁で行われる特別展「上州の交通史四〇〇年—中山道から高速交通網へ—」の開催とあわせて、記念講演会を開催します。

講演では、加賀藩田舎の無代藩主の参勤交代の道筋（主に高山・長野善光寺群山の北国下街道から中山道のルート）、大名行列の人数、宿泊・休息の方法、道中の消費費用など、大名の具体的な旅の様子をわかりやすくお話しいただく予定です。

期日 十一月二十三日（土）
時間 午後一時四十分～三時四十五分
会場 県庁一階 県民ホール北側
講師 志田 敏男

（元金沢市立図書館副参事）
志田先生には、「参勤交代道中記—加賀藩史料を読む—」（平凡社）などの著書があります。

定員 百名
受講料 無料
申し込みは、十一月一日（金）から二十日（水）までの間に電話かファクスにて受け付け、定員になりましたら締め切ります。

電話 027・2221・2346
ファクス 027・2221・1628

3・4 資永楽関係資料のマイタロ収集開始

4・2・12 第一回公文書・記録保存専門講座開催

5・3・31 県史編さん室廃止にともない、県史関係資料を引き継ぐ

6・2・15 「ぐんま史料研究」創刊

6・3・31 「群馬県史収集複製資料目録」刊行開始

7・9・27 文書館書庫増築工事竣工

8・2・23 書庫増築完成記念—史料保存シンポジウム—開催

9・3・31 県史編さん資料の整理完了（複製資料目録四冊、総索引一冊）

9・5・22 群馬県市町村公文書等保存活用連絡協議会設立

11・2・26 「ぐんまの古文書」刊行

11・4 上州の開拓、温泉関係資料のマイタロ収集開始

12・3 文書館ホームページ開設

12・3 文書館に収蔵する文書の目録データベース化開始

12・7 インターネット古文書講座開設

13・1・13 正月特別展「つる舞う形の群馬展—上野国から群馬展へ—」を県庁県民ホールにおいて開催

13・3 史料保存の手引き（群文協と共編）作成

13・12 文書館自主制作ビデオ完成

14・1・12 特別展「家て・見て・探そう つかしのふるさと—群馬の大絵図展—」を県庁県民ホールにおいて開催

※太字の記事は、表紙の写真をご参照ください。

新たに閲覧できる。

古文書

閲覧点検等を終え、新たに閲覧利用できる書類・寄託古文書は次のとおりです。

○邑桑郡大泉町・漢野さく家文書

漢野家文書は、江戸時代の邑桑郡下小泉村文書として知られており、江戸時代前期から明治・大正期にかけての村政関係文書、漢野家の家政・家業を中心とする私的関係文書、丸山家文書からなる総数二〇二〇点に及ぶ文書群です。詳しくは、「群馬県立文書館収蔵文書目録20」をご覧ください。

(P一九四〇五)

○館林市足次町・館塚博久家文書

館塚家は多くの土地を所有し、機織りも経営していた関係で、総点数二三〇点あまりの文書のうち、明治十年代から三十年代の土地小作契約書や機械関係の奉公人請状などの契約書類がほとんどを占めています。他に成島の開墾地に関する陳情文書があります。

(P一九五一一三)

○館林市ほか・遠藤徳夫家文書

明治十年から明治二十二年までの遠藤胤寿氏関係文書八〇点あまりで、小学校進調書、東京大学医学部在学関係、邑桑郡医、検校医、日本赤十字社等の医事関連辞令等が中心です。また、日清戦争従

軍記章やノートのほか、明治時代の滝尾地震、陸羽地震の災害写真、胤寿氏の妻の看護婦免状なども含まれています。

(P一九六〇八)

○新田郡新田町・小林憲佐夫家文書

慶応三年から明治二十二年の気楽流業新に関する巻物四巻と、群馬県からの整養学校への寄附金に関する礼状一通の計五点です。気楽流は、加賀前田家の家臣戸田越後守を始祖とする「戸田流」のことであるといえます。巻物は、流儀に関する箇条書きと免許皆伝に関して記したもので、道場も長山伊勢から小林長十郎に宛てたものです。

(P一九九〇三)

今同閲覧可能となったマイク口収蔵文書は次のものです。

○碓氷郡土博物館蔵・杉家密書資料

総点数二四〇点(製本五冊)の複製素彦関係資料です。東京市赤坂区新坂町在住の複製素から妻の実家である山口県萩の杉民治及び杉相次郎宛の書簡が大部分を占め、ほかに小田村伊之助(複製の旧姓)から吉田松陰あての書簡も含まれています。

(P P P 九七〇三)

新たに収蔵された

古文書

平成十四年一月以降、当文書館へ寄託・寄贈された古文書は次のとおりです。

○前橋市下郷町・南雲正和氏収蔵文書

大正九年の「前橋市街全図」一編で、当時の町並みをよく表した色刷り地図です。

(寄託)

○前橋市虹野町・大國軍之丞氏収蔵文書

県令複製素彦、県知事深澤正雄の書や多胡陣の拓本など掛け軸と、昭和九年の陸軍特別大演習に伴う群馬県発行の展覧成績品目録とです。

(寄贈)

○前橋市朝日町・江藤毅家文書

幕末の横浜開港に伴い生糸商として知られた江藤家に伝わる文書です。幕末・維新期以降の帳簿類・地巻・典拠・証文類・書簡類などが含まれます。(寄託)

(寄託)

○藤岡市・市川勝氏旧蔵文書

藤岡周助の地方文書、日野村役場文書などを含む、郷土史家であった故市川勝氏の旧蔵文書です。(寄贈)

(寄贈)

○埼玉県上尾市・築本四郎右衛門家文書

利根郡新治村水井に伝わり、当館の「収蔵文書目録18集」に未収録の新たに発見された三〇〇点あまりの文書です。

(追加寄託)

○鶴岡市朝日町・久保田正二家文書

明治時代の普通小学校修身口授書・高学

小学読本などの教科書をはじめとする類本類五〇冊です。(寄贈)

○太田市下田島・栗木毅家文書

江戸時代初期から昭和初期に至る文書主体の文書です。(追加寄託)

○前橋市箱田町・栗岡貞輔家文書

前橋藩松平家臣を務めた栗岡家には、以前に寄託された加藤清正書状、前橋藩役職にかかわる文書など四八〇点あまりがありました。栗岡家御書目日記、刀剣関係の覚書など一〇点あまりが新たに加わりました。(追加寄託)

(追加寄託)

○佐渡郡東村・森藤徳之家文書

旗本久水領東小保方村の陣頭に伝わる文書二〇〇点あまりと相書・典拠類、近代資料です。本文書群は佐渡郡東村指定文化財となっています。(寄託)

○善書館長野原町・市村軍八郎家文書

長野原町大津の名主文書を含む近世史料と近現代史料を合わせて四〇〇点あまりの文書群です。(寄託)

(寄託)

マイク口収蔵文書では次のものです。

○明治期「郷土誌」

明治四十二年の県知事訓令によって各市町村で編さんされました。当時の二〇八市町村のうち四七村分は撮影済でしたが、新たに五〇町村分を撮影しました。

新たに収録した

行政文書

管理受任等 平成十三年に管理委任及び引継により県の各機関から受け入れた文書は、一九九冊でした。(詳細は表1のとおり)

室 課 名	長 期	短 期	合 計
臨時維持課	44	0	44
都市計画課	2	0	2
知事部局会計	181	0	181
学校人事課	15	0	15
文化財保護課	5	0	5
教育委員会	18	0	18
合 計	199	0	199

表1 平成13年度文書館管理受任文書室課別冊数

室 課 名	長 期	短 期	合 計
社会課	12	0	12
学事文書課	2	0	2
企画課	8	0	8
交通政策課	1	0	1
統計課	1	0	1
地域整備課	7	0	7
保健福祉課	17	0	17
高齢政策課	3	0	3

室 課 名	長 期	短 期	合 計
農業経済課	1	0	1
畜産課	23	0	23
流通経済課	7	0	7
土地改良課	2	0	2
産業政策課	34	0	34
経営支援課	6	0	6
監理課	1	0	1
道路建設課	10	0	10

取 集 昨年度の文書整理において、各機関が廃棄した文書資料中から、文書館が歴史資料と認めて収集したものは、二、九三五冊でした。(詳細は表2のとおり。なお、議会図書室からのものは、郷土資料等)

表2 平成十三年年度収集文書部局別冊数

部局名	冊数
総務部	227
企画課	417
保健福祉部	413
環境生活部	245
農政部	380
林務部	111
商工労働部	88
土木部	481
議会図書室	519
議会事務局	54
合 計	2905

平成13年度マイクロ複製絵図一覧

番号	地 区 名
897	見 井 地 区 図
979	上野国利根郡飯沼村地区
990	利根郡下野村地区図
地帯発行にかんする地区図	
829	吾妻郡早田村
829	群馬郡足高村地区図
830	吾妻郡足高村地区図
959	上野国利根郡東小川村
961	＊ 藤本村
964	＊ 門波原
1023	＊ 柳原
1096	＊ 吾妻郡足高町村
1038	＊ 豊多郡田原村
1040	＊ 赤井村
1133	新田郡小久保村
1164	上野国新田郡東田村
1236	邑楽郡小沢村
1254	＊ 上原村
1360	＊ 藤岡村
1280	佐野郡茂原村
村字別図(村誌地区)図	
1261	利根郡飯沼村
1262	＊ 高日向村
1263	＊ 赤女沢村
1264	＊ 湯船谷村
1265	＊ 柳沢村
1266	＊ 石倉村
1267	＊ 若土上村
1268	＊ 大沼村

番号	地 区 名
1259	利根郡今井村
1260	＊ 原田村
1261	＊ 黄巻村
1262	＊ 戸田村
1263	＊ 下沼田村
1264	＊ 小川田村
1265	＊ 幸加村
1266	上野国利根郡＊池野原
1267	＊ 免加原村
1268	＊ 向土村
1269	利根郡白岩村
1270	上野国利根郡柳子村
1271	＊ 藤塚村
1272	利根郡高井村
1273	＊ 中野村
1274	上野国利根郡中野村
1275	＊ 藤原村
1276	＊ 小川村
1277	上野国利根郡尾原村
1278	＊ 平出村
1279	＊ 真飯村
1280	利根郡夜良村
1281	上野国利根郡沼田村
1282	＊ 赤沢村
1283	＊ 下沼田村
1284	＊ 薬師村
1285	利根郡赤岩村
1286	＊ 沼田村
1287	＊ 月夜野村

番号	地 区 名
1288	上野国利根郡下免知村
1289	＊ 大沼村
1290	利根郡秋保村
1291	＊ 駒田村
1292	＊ 原村
1294	利根郡上免知村
1295	上野国利根郡大神前
1296	利根郡藤村
1297	＊ 西住寺村
1298	＊ 宇佐井村
1299	＊ 上久原村
1300	上野国利根郡尾島村
1401	＊ 生島村
1402	利根郡新巻村
1403	＊ 上野村
1404	＊ 沼場村
1405	＊ 須賀川村
1406	＊ 岩本村
1407	＊ 下久原村
1408	＊ 下古志文村
1409	上野国利根郡下津村
1410	利根郡尾合村
1412	上野国利根郡下野村
1413	利根郡尾形原村
1414	＊ 上沼田村
1415	＊ 築地村
1416	上野国利根郡上古志文村
日 基 (原) 免 知 図	
1421	安中城(田代)免知(原)

番号	地 区 名
跡地整理図(免知原・子代図)	
1323	新田郡飯沼本町大字飯沼町下道と原地区整理図(子代図)
1324	新田郡飯沼本町東地区整理図
1426	邑楽郡高井村秋保村地区整理図
1427	邑楽郡小沼町大字下小泉村跡地整理図
1430	邑楽郡小沼町外二ノ下村跡地整理図(本地区図)
1431	邑楽郡高井村外四ノ下村跡地整理図
1432	邑楽郡高井村大字新田・上田川・下沼村跡地整理図
1434	邑楽郡高井村大字秋保村跡地整理図
1435	邑楽郡高井村(村誌地区)図
その他(市屯地区、道路図等)	
308	利根郡片倉野中地区図
1349	赤川沼田沼田橋平原図
1350	利根郡沼田中野沼田原図
1380	利根郡八千早沼田地区図
1411	利根郡赤川町尾形沼田地区図
1417	利根郡上野村沼田地区図
1418	利根郡高井村(子代)地区図
1420	利根郡秋保村全図
1422	利根郡石倉村全図
1423	利根郡高井村尾形沼田全図
1424	利根郡(子代)沼田沼田原図
1425	邑楽郡高井村利根地区図

新たに閲覧できる

マイクロ複製絵図

昨年度マイクロ複製化した明治初期絵図は、左表のとおりです。モノマイクロフィルムからの複製は即時にできます。

告知板

平成十四年度企画展

「江戸の出版文化―印刷技術の移り変わり」のご案内

△期日 七月五日(金)～十月十三日(木)

△会場 文書館一階展示室 観覧無料

この企画展ではキリシタン文化の影響をうけたといわれている江戸時代初期の「古活字版(こかつじばん)」といわれた重要美術品や、一般的な木版(もくはん)で刷られた「藝版本(せいばんほん)」、さらには近代西欧の技術を導入した「銅板画(どうばんが)」などを展示します。

今回の展示では、江戸時代のいろいろな時期に刊行された出版物を印刷のジャンル別に配置しました。出版物は文書と違って不特定多数の読者を対象としたものですが、その印刷の様式によって印刷年代などの特徴もわかります。

そのため印刷文化としての江戸時代は、どういずもものであったのかを理解していただくために、西欧で刊行された日本関係の資料も含めての比較をしています。

また参考資料として江戸時代の上州で刊行された書籍もご覧になれます。

なお、展示の中ではパネルを使って、どのように整版本がつくられていくのか

という過程もわかりやすく展示します。

○「群馬県行政文書件名目録」第13集 (大正期学務編)の発行

本目録は「群馬県行政文書簿冊目録第2集」(大正期行政文書編)の分類項目「学務」に類別した四二二冊のうち、「加俵(かたはら)、恩給(おんく)、退職料」に属する一、五七〇件を収録した閲覧用の文書件名目録です。内容としては、特別加俵や年功加俵の支給にかかわる文書や、退職教員やその遺族に支払われる退職料、扶助料、恩給などにかかわる文書などが大半を占めます。

○「群馬県立文書館収蔵文書目録」20の発行

本目録は「邑楽・館林地区諸家文書(1)として「濱野さく家(大泉町東小泉)」「小池篤氏収集(館林市本町)」の諸家文書経目四三〇〇点を目録化したものです。

このうち「濱野さく家文書」は江戸商人の采や塩取引に関する商売文書が中心です。

また、「小池篤氏収集文書」は、「平安時代」から「江戸時代」におよぶ「収集文書A群」と旧大佐貫村文書である「収集文書B群」とに分かれます。

「収集文書A群」の中には醍醐寺や金沢文庫などで回収されていたと考えられる古文書などもあります。

○「ぐんま史料研究」第十八号の販売

【論文】
井上定幸「西上州における信州米市場をめぐる市立て紛争の展開―西教諭本宿村の天明五年(幕市立て訴訟前経)の紹介―」
松浦利隆「高山社創成期の研究―清温育の成立を中心として―」

【史料】
「大日本帝國憲法下における群馬縣衆議院議員選挙録(三)」

販売価格は、一冊一〇〇〇円です。文書館内で販売しています。また、バックナンバーも販売しておりますので、詳しくはお問い合わせください。なお、第十九号の刊行は九月末の予定です。

△平成十四年1月6日

1・12 特別展「来て、見て、探そう! むかしのふるさと」群馬の大絵画展1(県庁県民ホール北側11月20日)

特別展記念講演会「絵巻国からみた歴史景観」絵巻・地図の読み方、調べ方1(群馬大学助教授 関川明子 県庁会議室)

平成13年度第2回収蔵文書展(1月16日)

2・1 発行/群馬県立文書館

〒550-8501 前橋市文京町1-1-1 印刷/松本印刷工業株式会社 字/岡屋住人書



案内図



- 2・19 文書館運営協議会開催
- 3・8 「ぐんま史料研究」第十八号刊行
- 3・10 ぐんま手作りビデオコンクール表彰式(優秀賞)
- 3・29 「群馬県行政文書簿冊目録」第13集(大正期学務編)、「群馬県立文書館収蔵文書目録」第20集(邑楽・館林地区諸家文書)、「文書館紀要」双文、第19号刊行
- 4・1 文書館文書調査員3名委嘱
- 5・23 群馬県市町村公文書等保存活用連絡協議会(群馬協)総会開催
- 6・1 古文書解説入門講座(8日、15日、22日、29日修了式)
- 6・19 行政文書管理委員、引継、収集作業開始(17月3日)

